

ボクとワタシの ことば ばなし 第4話

目 次

◆世界の言語と日本語	2
♪「母語」「国語」「公用語」♪	2
♪「日本語」と世界の人々♪	3
◆「話しことば」について	3
♪「話しことば」だけの言語♪	3
♪「地域のことば」と「共通語」♪	4
♪言語環境のこと♪	4
♪言語生活のこと♪	5
♪1回きりのことば♪	5
♪少ない長生きことば♪	5
♪「話しことば」と人類♪	6
◆早わかり文字の歴史	7
♪文字にできること♪	7
♪絵文字から「表意文字」へ♪	7
♪「表音文字」の誕生♪	8
♪二つの文字系列♪	8
♪古代からの贈り物♪	9
♪日本語文字と世界♪	9

日本語の研究

ボクとワタシの
ことば ばなし 第4話

シンキング・バース

日本語研究班

世界の言語と
日本語

世

界には、たくさんのことばの種類があります。英語や中国語のように、数億人が使うことばから、数人しか話す人がいないことばまで、6,000種類以上あると言われています。ボクたちは、その一つひとつを、「言語 (Language)」と呼んでいます。

●母語人口の多い言語●

言語	母語人口	使っている国
1 中国語	8億 8500万人	中国
2 英語	4億人	イギリス、アメリカなど
3 スペイン語	3億 3200万人	スペイン、メキシコなど
4 ヒンディー語	2億 3600万人	インド
5 アラビア語	2億人	中近東諸国、エジプトなど
6 ポルトガル語	1億 7500万人	ポルトガル、ブラジルなど
7 ロシア語	1億 7000万人	ロシア、ベラルーシなど
8 ベンガル語	1億 6800万人	バングラディッシュなど
9 日本語	1億 2500万人	日本
10 ドイツ語	1億人	ドイツなど
11 呉 (ウー) 語	9100万人	中国 (浙江省周辺)
12 ジャワ語	7500万人	インドネシア
12 韓国・朝鮮語	7500万人	韓国、北朝鮮

出典：文部科学省資料『The Penguin FACTFINDER (2005)』

国連は、たくさんある言語の中で、6言語を「世界の公用語 (Official Language)」に決めています。英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、アラビア語です。どの言語も、2つ以上の国や地域で普及している言語です。日本語は、残念ながら、「世界の公用語」ではありません。

♪「母語」「国語」「公用語」♪

日

本語を話せる人は、世界で1億数千万人いる、と言われていいます。文部科学省は、そのうちの1億2千5百万人が、日本語を

「母語 (Native Language)」にしていると公表しています。世界で9番目に多い数です。「母語 (ぼご)」というのは、その人が生まれた時から、なじんでいる言語のことです。日本に生まれても、家庭や学校で英語を中心に話している人の「母語」は、たぶん英語です。地方に生まれて、

ボクとワタシの ことば ばなし

少しなまったことばを話す人がいたら、そのなまったことばが、その人の「母語」です。「母語」は、一人ひとりが、知らず知らず身につけた言語です。

ボクたちは学校で、その国の言語を学びます。それは、「母語」とは少しちがう言語かもしれません。日本全国どこでも通用する「共通語 (Common Language)」を学ぶのが普通です。それをボクたちは、「国語 (National Language)」と呼んでいます。イギリスでは英語、フランスではフランス語、韓国では韓国語のように、それぞれの国に「国語」があります。中には、メキシコのスペイン語、ブラジルのポルトガル語のように、メキシコ語やブラジル語がない国もあります。

スイスでは、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマン語の4つの言語を使っています。そういう言語は、「国語」とは言わず、その国の「公用語」と言います。「国語」や「公用語」は、その国の政府が、国内で公式に使うことを認めた言語です。アメリカでは、英語は「国語」ではなく「公用語」です。

♪「日本語」と世界の人々♪

外

国語を「母語」にしている人の中で、日本語を話せる人は、世界中に暮らしています。祖先が外国に移住して、今でも日本語が話せる人たち。さまざまな事情で外国から日本に移住し、努力して日本語を覚えた人たち。日本に興味があって、日本語を学んだ人たち。その人たちにとって日本語は、「母語」ではありません。外国に暮らしていれば、「国語」や「公用語」でもありません。

2つ以上の言語の使い分けの人を、「バイリンガル (Bilingual)」とか、「マルチリ

ンガル (Multilingual)」と呼ぶことがあります。日本人でも、日本語以外の言語と使い分けができる人は、たくさんいます。いくつかの言語の使い分けができれば、その分、さまざまな人とのコミュニケーションが可能になります。

ボクたちは、世界の言語の中で、日本語ってどんな役割を果たせるんだろう、日本語の魅力って何だろう、と考えています。いっしょに考えてくれたら、うれしく思います。

「話しことば」 について



♪「話しことば」だけの言語♪

世

界中に6,000種類以上ある言語の中で、文字を持っている言語は、100種類くらいと言われています。90%以上の言語は、文字を持っていません。「話しことば」しかないのです。おじいさんやおばあさんのなまったことばも、正確に言うと「話しことば」だけの言語です。

「話しことば」だけの言語は、お話ができる人がいなくなると、地球上から消えてしまいます。生き物が絶滅する心配があるのと同じように、消滅が心配されている言語は、世界中にたくさんあります。

アメリカでは、アラスカに古くから暮らして来た人たちがいて、自分たちの言語を話していました。イヌイト語が有名です。ハワイにも、ハワイ語があります。「アロハ」は、みんなが知っていますよね。ハワイ語は、ハワイの「公用語」ですが、ハワイ語だけで暮らしている人は、今はほとんどいなくなりました。アメリカ先住民の言

ボクとワタシの ことば ばなし

語も、たくさんありましたが、消滅した言語が数多くあります。

♪「地域のことば」と「共通語」♪

日

本では、北海道でアイヌの人たちが使っていたアイヌ語には、文字がありません。だから、アイヌ語を研究する人たちは、

「話しことば」をアルファベットで書いて残して来ました。アイヌ語以外にも、日本各地には、いろいろな「地域のことば」があって、中には話せる人がいなくなりかけているものもあります。なお、「地域のことば」は、「方言 (Dialect)」とも言われますが、好ましくないと判断しているので、ワタシたちは使いません。

アイヌ語や「地域のことば」が使われな

くなっている背景には、「共通語」の普及があります。「共通語」は、日本中どこでも通用する利点を持っています。「共通語」を使う方が、何かと便利だし、「訛ってる」とか言われなくて済みます。

でも、「地域のことば」は、その人が生まれた時からなじんでいる「母語」という面を持っています。他人にとっては変わったことばでも、その人にとっては、しっくり来ることばの場合が多いのです。

日本語の「共通語」は、その「地域のことば」を変なことば扱いにし、強制的に直すようにした歴史がありました。ワタシたちは、それは誤りとの判断から、「地域のことば」を尊重します。ただし、「地域のことば」による「共通語」への逆差別は、容認できません。

●日本の消滅危機言語●

言語名	都道府県	ユネスコ判定
アイヌ語	北海道	極めて深刻
八丈島ことば	東京都	危険
喜界島ことば	鹿児島県	危険
奄美大島北部ことば	鹿児島県	危険
奄美大島南部ことば	鹿児島県	危険
徳之島ことば	鹿児島県	危険
沖永良部島ことば	鹿児島県	危険
与論島ことば	鹿児島県	危険
沖縄北部(国頭)ことば	鹿児島県	危険
沖縄ことば	沖縄県	危険
宮古ことば	沖縄県	危険
八重山ことば	沖縄県	重大な危険
与那国ことば	沖縄県	重大な危険
言語名	都道府県	文化庁判定
甌(こしき)島ことば	鹿児島県	危険

出典：ユネスコ“Atlas of the World’s Languages in Danger”、文化庁資料『消滅の危機にある方言・言語』

♪言語環境のこと♪

ワ

タシたちが、普段使っている日本語の「話しことば」は、おじいさんやおばあさんが使う地方のことばだったり、パパやママが使うことばだったり、アイドルの〇◎ちゃんが使うことばだったりします。友達同士でハシャイじゃう時の、おしゃべりもありますね。テレビやネット動画からだって、いろんなことばが聞こえて来ます。

街に出ると、駅のホームや電車の中、人混みやショップの中でも、いろんなことばに出くわします。外国語が聴こえることも、ありますね。

大人になると、仕事で使うことばが必要です。そこで使われているのは、「国語」みたいに、キチンとした日本語ばかりではありません。キラいなことばや汚いことばが、あるかもしれません。意味わからんちゃんなことばを聴いたりします。

ボクとワタシの ことば ばなし

ワタシたちは、一人ひとりが暮らしている身の回りのことばの環境のことを、その人の「言語環境(Language Environment)」と呼んでいます。

♪言語生活のこと♪

ワ

タシたちの「話しことば」は、話したら、すぐに消えてしまいます。録音再生しない限り、同じことばを、同じように聴いたり話したりすることは、二度とありません。

でも、ワタシたちは、学校で習ったことばや家の中で使うことばを、忘れずにずっと覚えています。友達とのおしゃべりやテレビで聴いたことばの中にも、長く覚えていることばがあります。何回も聴いたり話したり、文字で読んだり書いたりしているうちに、知らず知らずに意味を覚え、ことばが身についたのです。

大人になるにつれて、身につくことばの数は、どんどん増えて行きます。覚えたことばを組み合わせ、自分らしいことばの世界を作り、暮らしや仕事に役立つように、ことばを使いこなします。

一人ひとりのことばの世界は、みんなと同じように聞こえても、微妙にちがっています。ワタシたちは、その人らしいことばの世界と暮らしのことを、その人の「言語生活(Linguistic Aspects of Life)」と呼んでいます。「言語生活」には、文字を読んだり、書いたりすることも含まれています。

♪1回きりのことば♪

友

だち同士でハシヤイじゃった時に、ノリで作ったナンチャッテ語が、評判悪かったことって、ありませんか？

いきなり「シーン・・・^_^;)」ってやつです。

空気感悪くなったりします。

かわいそうに、そのことばは、1回使われて、それっきり、さよならです。

「1回限りで、すぐに消えちゃうことばって、ことばって言えるの？」と思うかもしれませんね。

ワタシたちが、普段の暮らしの中で身につけたことばは、とても長持ちです。一生使い続けることばも、たくさんあります。

「学校」「会社」「おやつ」「勉強」「仕事」「行く」「来る」「遊ぶ」「食べる」「おいしい」「好き」「きれい」「きれいな」「楽しい」。こういうことばは、一生忘れないことばでしょう。

でも、難しいことばや聞き慣れないことばは、忘れてしまうことが多いのです。特に、新しくできたことばは、最初は誰も知らないし、どんな意味かもわかりません。

例えば、思いつきで「ペリタギピー」と言っちゃったとします。「ペリタギピー」が、どんな意味なのかは、誰も知りません。言った本人も、「意味なんてない」と思ったりします。

「何？ それ・・・。訳わかんない」と言われてしまえば、それっきりです。

ところが、「ペリタギピー！ キャハハ、良いよね、ペリタギピー！」となったら、どうしますか？

「ペリタギピー」は、通じてしまいました。感覚的に受けたのかもしれないし、場の雰囲気盛り上げたのかもしれないし。思いつきで言っただけなのに、「ペリタギピー」は、それなりの《意味》を持ってしまいました。

♪少ない長生きことば♪

こ

とば遊びから「新しいことば」が生まれることは、良くあることです。お笑いの世界では、「新

ボクとワタシの ことば ばなし

しいことば」を作るために、毎日頭を悩ませている人がいたりします。訳わかんない語が、次々に出て来ても困りますが、ことばは生き物です。新しく生まれては、消えて行きます。でも、「新しいことば」は、なかなか長生きできません。生まれてすぐに使わなくなったり、短い間だけ使われて、消えて行ったりします。長生きすることばは、本当はとても少ないのです。

ワタシがまだ小さかった頃、「ダイヤルする」ということばがありました。それは、「電話をする」という意味のことばでした。その頃は、電話機にダイヤルがあり、それを回して電話をするのが、普通の電話のかけ方でした。でも、そういう電話機は、どんどんなくなって行きました。固定電話がない家も増えたので、「ダイヤルする」と言っても、わからない人も多いと思います。「電話をする」ことを「ダイヤルする」と言う人は、ごく自然にいなくなりました。そんなふうに、時代が変わって、暮らす環境が変わると、ことばも変化します。

ことばが通じない外国人同士が、初めて出会った時に、その時だけ使ったことばを、「ピジン (Pidgin)」と呼ぶことがあります。ワタシたちは、長生きできずに消えて行ったことばを、「死語」なんて言わず、「ピジン」と呼んで良いと思っています。

♪ 「話しことば」と人類 ♪



類の言語は、「話しことば」から始まっています。文字を発明したのは、ずっと後のことです。人類は、動物の絵のような模様を描く能力を、かなり昔から持っていました。でも、それが文字に発展するには、時間が必要でした。

「話しことば」は、文字が生まれるまで、人間同士がコミュニケーションを図る、大

■ 「ピジン」のお話

遠い昔、イギリス人がアメリカ大陸に渡って、初めてインディアンと出会った時のことを、想像してみましょう。いきなり武器を持って、戦い始めたのでしょうか？

イギリス人は、長い船旅で、クタクタだったでしょう。見知らぬ陸地に上陸したものの、どこに何があるのかもわかりません。そんな時に出会ったインディアン。攻撃されたらおしまいですが、でも、話しかけられました。

お互いのことばは、全然通じません。イギリス人は、船で海を渡って来たことを、伝えたいと思いました。食べ物が欲しいことも、伝えたいと思いました。イギリス人は、身ぶり手ぶりを混じえて、英単語を並べました。インディアンは、身ぶり手ぶりに対する英単語で、ぼんやりとその意味が分かりました。そして、英単語に対応するインディオ語をしゃべりました。イギリス人は、ことばが通じたことがうれしくて、インディオ語を真似してしゃべりました。

「ピジン」は、ことばが通じ合わない人間同士が初めて出会った時に、コミュニケーションを取ろうとした言語のことです。文法はメチャクチャで、「This、これ、これね、potato、boil、イモ、eat、食べる、ね」のように、単語を並べただけのことばになります。

「ピジン」が長続きすることは、ほとんどありません。時間と共に、お互いの単語や文法を覚え、会話もスムーズになります。それでも消えずに残った「ピジン」のことを、ワタシたちは「クレオール」と呼んでいます。

(by ワタシ)

切な道具でした。文字がなくても伝えたいことを伝えるためには、一つひとつのことばに魅力が必要です。そして、相手のことばを、聞いて理解できる能力が必要です。長生きのことばは、その中でも特に、暮らしの中で魅力を持ち続け、重要な役割を果たすようになったからこそ、使われ続けて来たのです。

早わかり 文字の歴史



人

類が作った初めての文字は、古代メソポタミアの「楔形文字」と言われています。5000年以上も昔に生まれた文字です。少し遅れて古代エジプトで、「古代エジプト文字」が生まれました。古代中国では、4000年くらい前に、漢字の祖先になる「甲骨文字」が生まれました。古代インドでも、「インダス文字」が生まれました。そのほか、アメリカ大陸では、「インカ文字」「マヤ文字」「アステカ文字」がありました。古代に生まれた文字は、中国の漢字を除いて、今は使われることはありません。遺跡から出て来た文字に、どんなことが書かれているのかは、まだ十分に解読されてはいないのです。

♪文字にできること♪

文

字を使うようになった人類は、「話しことば」ではできにくかったことが、できるようになりました。

■記録（伝承）する

一つは、子孫にお話を伝えることです。「話しことば」でもそれはできますが、た

くさんお話があると、忘れてしまうこともありました。いつの間にか、中身がちがうものになったりしたかもしれません。文字は、読み方を習った人がいれば、それをきちんと伝えてくれます。

ボクたちは、それを「記録」と呼んでいます。

■伝達（情報交換）する

二つ目は、離れた所にいる人に、情報を伝えることです。現代で言えば、手紙やメールです。相手の所に行って、直接お話できれば良いのですが、ちがう「話しことば」だったり、相手の所に行ける体力がなかったりすると、誰かに頼んで情報を伝えてもらわなければなりません。そんな時に、文字を使って情報を伝えることが、できるようになりました。

ボクたちは、それを「伝達」と呼んでいます。

■計算する

三つ目は、数を数えることです。一人の人間は、手足の指を使って、最大で20まで数えることができます。でも、それ以上になると、一人のからだでは手に負えません。飼っている動物を数えたり、木の実の数を調べたり、畑にする場所の広さを歩数で調べたり、人間にとって数は、いろいろな目安になるものでした。

数字は、それを使って「計算」する能力を、飛躍的に高めてくれました。文字がある社会とない社会の最大のちがいは、「計算」する能力のちがいを生んだことです。

♪絵文字から「表意文字」へ♪

岩

や壁に絵を描いたり、土器に模様をつけたりする習慣は、ずっと昔から人類にありました。日本では、縄文人や弥生人が、模様のついた土器を、たくさん作り

ボクとワタシの ことば ばなし

ました。でも、それを文字とは呼びません。模様との区別がつかないためです。

人間が作った最初の文字は、絵文字でした。山や川のような自然、身の回りにいる動物、食料の麦の穂や木の実、人間の姿などを絵に描いていました。絵文字は、ただで意味がわかります。リンゴの絵文字はリンゴ、虫の絵文字は虫です。現代の日本の絵文字は、!(^)!や(*_*)のような形をしています。

その絵文字を崩して簡単にして、文章を作るようになります。メソポタミアの「楔形文字」、「古代エジプト文字」、中国の「甲骨文字」は、絵文字を簡単にして作られています。

そんなふうには、一文字で意味がわかる文字は、「表意文字」と呼ばれています。今も使われている「表意文字」は、世界中で漢字と数字だけです。

♪「表音文字」の誕生♪

文字で意味が伝わる「表意文字」は、とても便利です。「山」「川」
 は、どんな読み方をしても「山」「川」です。Mountain や River のように、文字を組み合わせる必要はありません。

でも、一つひとつの物や動作に文字を作っていたら、ものすごい数になってしまいます。とても覚え切れないし、作る方も大変です。

それに、「山」という漢字に、「サン」「ザン」「やま」といくつかの読み方があるように、話しことばでは呼び名がちがったりしました。

そこで人類は、文字の意味はともかく、「話しことば」で使う音を文字にするようになりました。人間が口から発する音は、基本的には母音と子音です。音の組み合わせ

セルールさえわかれば、「話しことば」を文字化することができます。文字数もグッと少なくて済むのです。

そんなふうには作られた音を表す文字は、「表音文字」と呼ばれています。「表音文字」の一文字一文字には、意味はありません。「あいうえお」「カキクケコ」のように、音を表しているだけです。世界の文字の中でも、アルファベットの「a b c d e f g . . .」やロシア語のキリル文字、アラビア文字、インド文字など、ほとんどの文字は、「表音文字」です。

♪二つの文字系列♪

現

代に伝わる文字には、大きく分けて、二つの系統があると考えられています。一つは、「楔形文字」と「古代エジプト文字」から発展した文字。もう一つは、漢字を祖先にする文字です。

中東・エジプト系の文字は、「フェニキア文字」という文字を通して、アルファベットやアラビア文字、インド文字に発展しました。一方、漢字系の文字は、日本語のひらがなやカタカナ、韓国のハングル文字の元になりました。

アメリカ大陸のインカなどの文字は、解読の研究が進められています。

古代文字は、特別の人しか読み書きできませんでした。古代エジプトでは、文字が読めない王様もいた、と言われていました。文字は、「神官」という役人が、王様の業績を神様にお知らせするために、使われたと言われていています。死後に神様から罰を受けないように、民のためになる行いをした王様だったと書き伝えたのです。国の法律を文字にした王様もいました。さまざまな神話も書き残されました。

♪古代からの贈り物♪

多

くの人が文字の読み書きができるようになるのは、学校ができてからでした。日本では、明治時代に小学校ができました。

それまでは、日本にも文字を読めない人が、たくさんいたのです。

文字には、長い歴史があります。特別な人しか使うことが許されなかった文字を、みんなが使えるようになったことは、とても良いことです。でも、みんなが使えるから、粗末に扱っても良いことにはなりません。何を書いても良いことにはなりません。

昔、文字を使うことを特別に許された人たちは、特別な身分だからこそ、文字を大切に扱って来ました。今は、そういう特別な身分の人はいないし、文字を特別扱うこともなくなりました。みんなが当たり前のように使っている文字。その長い歴史に支えられた人類だけの宝物は、本当は粗末にできないものなのです。

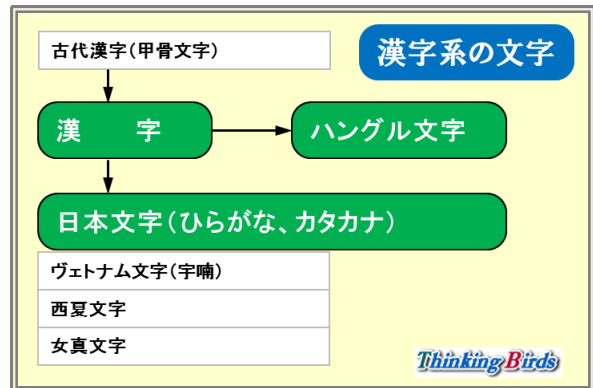
♪日本語文字と世界♪

日

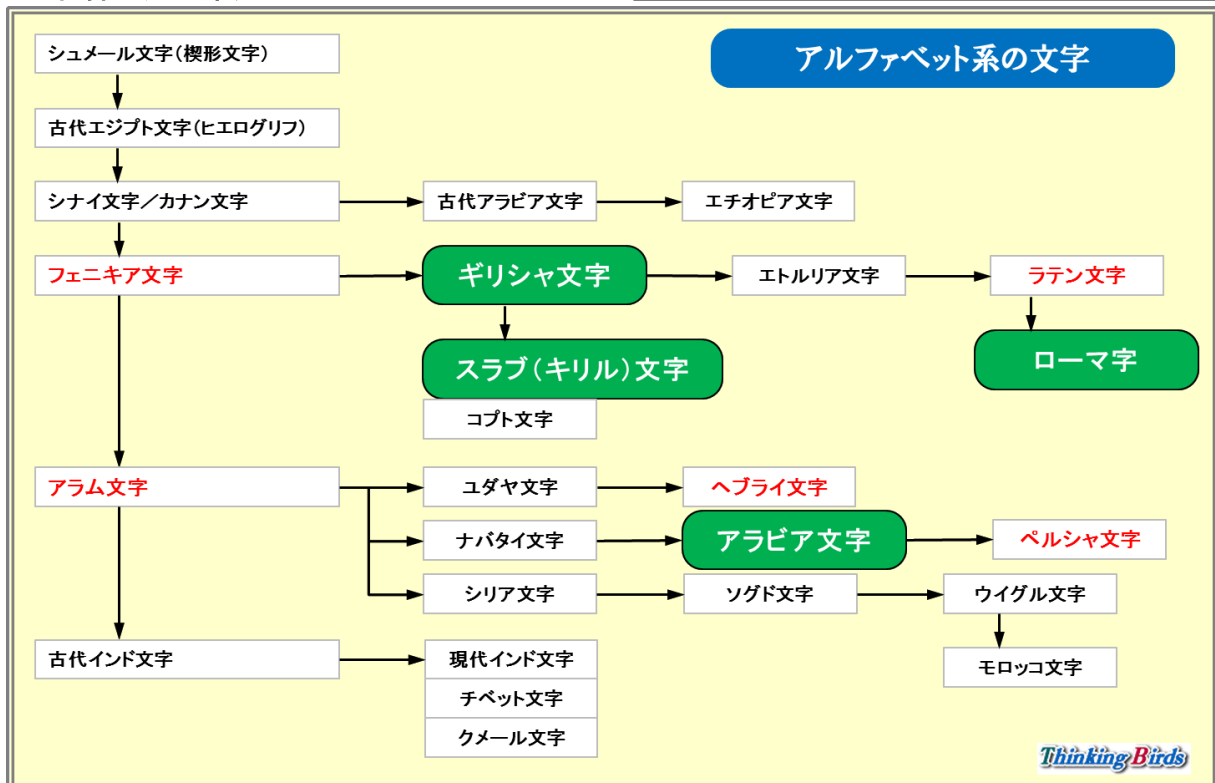
本語の文字は、ひらがな、カタカナを含めて、漢字を祖先にしています。明治時代以降に、アラビア数字、アルファベットが

加わり、5種類の文字を組み合わせることで日本語を作ります。文字の種類と数は、世界の言語の中で、はずば抜けて多いのです。

日本語の文字数が多いことには、長所と短所があります。長所は、入り組んだ表現が可能ということでしょう。短所は、覚えることが難しい言語ということ。その長所と短所を見つめながら、世界の中の日本語を考えたいものです。



●世界の文字系列●





ボクとワタシの ことば ばなし



ほかのお話も読んでね！

第1話

- ・ことばとリズムのお話
- ・オノマトペを探検しちゃえ
- ・日本語は二刀流だよ
- ・明治翻訳語を今ドキ評価だ

第2話

- ・残されないことば
- ・「共通語」がやっぱ変だべさ
- ・「噂ことば」と「仕事ことば」

第3話

- ・「です」の物語
- ・ちょっと困った「新東京ことば」
- ・言語スイッチの切り替え
- ・アルファベットからのメッセージ

第5話

- ・心の風景と日本語
- ・これからの日本語

ボクとワタシの言語対談

- ・めちゃんこファンタジー

●参考になさって頂いた辞書や本です●

- ・田中克彦、H・ハールマン著『現代ヨーロッパの言語』(1985、岩波新書)
- ・石綿敏雄著『日本語の中の外国語』(1985年、岩波新書)
- ・ジョルジュ・ジャン著、矢島文雄監修『文字の歴史』(1997年、創元社)
- ・渡辺和子著「メソポタミアの文字の歴史」(2000年、『四大文明—メソポタミア—』NHK出版)
- ・岩崎民平ほか編『新英和中辞典』(研究社)
- ・新村出編『広辞苑 第二版補訂版』(昭和57年10月、岩波書店)
- ・亀井孝、河野六郎、千野栄一編著『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』(1997年1月、三省堂)
- ・スーザン・ロメイン著、土田滋・高橋留美訳『社会のなかの言語』(1997年4月、三省堂)

シンキング・バーズ新書

ボクとワタシの ことば ばなし 第4話

2017年8月5日(初版)発行

著者：シンキング・バーズ
日本語研究班
発行者：遊佐 芳泰

発行所：シンキング・バーズ

〒021-0821
岩手県一関市三関字神田105番5号
電話/FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バーズに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。